

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年8月6日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2774500967
法人名	特定非営利活動法人 たんぽぽの会
事業所名	グループホームやすらぎのさと
所在地	泉佐野市南中岡本60番地 (電話) 072-465-1158

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成21年7月23日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	16人	常勤	2人, 非常勤 14人, 常勤換算 6.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000円	その他の経費(月額)	20,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		円/1ヶ月	20,000円

(4) 利用者の概要 (平成21年6月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	81歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 都健幸会 春木クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域に根ざすNPO法人が、地元の日本庭園のある広い旧家をグループホームに改装して運営しています。地域で居宅介護支援、訪問介護等の事業も行っています。職員同士で話し合い「やさしく すてきな笑顔で接し その人らしい暮らしを支え きもちの通う やすらぎのさと」を理念と定め、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員のほとんどが地元住民で、町内会の役員も含まれていて、町会長をはじめ地域を挙げて応援し、良き理解者となり、利用者は昔懐かしい風情で落ち着いた家庭的な雰囲気の中で、ゆったりと過ごしています。協クリニクの医師と職員として配置した2人の看護師との医療連携により、利用者に必要な医療と看護を提供しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。センター方式の情報シートを利用し、新しい様式の「生活歴」表を作成する等、利用者の思いや意向を把握する努力をしています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者と職員はミーティングを3回開催して完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は泉佐野市職員、町会長、地域代表、家族の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況、行事、利用者の生活ぶり、職員の研修について話しています。ボランティアの受け入れや町の防災消防訓練への参加などについて意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。月に1回、写真を中心に行事の実施状況、今後の予定を載せた「やすらぎだより」を発行し家族に送付しています。また訪問の少ない家族には、様子を記した手紙を添えて送付しています。職員は、家族が思いや希望、不満を表出できるように心がけて対応しています。家族は運営推進会議にも参加して意見や要望を述べています。意見箱の設置も実施しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員のほとんどが地元住民で、町内会の役員も含まれており、町会長をはじめ、お土産や野菜、果物、庭に咲く季節のお花をいただくなど、地域を挙げて応援し良き理解者となっています。地域の行事には積極的に参加し、散歩の時には「安全パトロール」の腕章をつけて、通り道に落ちているゴミを集め出かけています。老人会や地域の人、職員の家族がボランティアで、銭太鼓や民謡・民踊・フラダンスなどを披露し、利用者は楽しんでます。地域の介護保険相談窓口の看板も掲げています。

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が話し合い「やさしく すてきな笑顔で接し その人らしい暮らしを支え きもちの通う やすらぎのさと」を理念と定め、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を明文化し掲示しています。月例のミーティング、毎日の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。また、研修で勉強する度に、理念通りに取り組めば間違いではないと職員間で共感しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域に根ざすNPO法人が、地元の日本庭園のある広い旧家をグループホームに改装して運営しています。職員のほとんどが地元住民で、町内会の役員も含まれており、町会長をはじめ、お土産や野菜、果物、庭に咲く季節の花をいただくなど、地域を挙げて応援し良き理解者となっています。地域の行事には積極的に参加し、散歩の時には「安全パトロール」の腕章をつけて出かけ、通り道に落ちているゴミを集めています。老人会や地域の人、職員の家族がボランティアで、銭太鼓や民謡・民踊・フラダンスなどを披露し、利用者は楽しんでいます。地域の介護保険相談窓口の看板も掲げています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。センター方式の情報シートを利用し、新しい様式の「生活歴」表を作成する等、利用者の思いや意向を把握する努力をしています。自己評価については、管理者と職員がミーティングを3回開催して完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は泉佐野市職員、町会長、地域代表、家族の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの運営状況、行事、利用者の生活ぶり、職員の研修について話しています。ボランティアの受け入れや、町の防災消防訓練への参加などについて意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	泉佐野市の担当職員とは常に相談や情報交換を行い、サービスの向上に取り組み、準備中の事業者連絡会にも参加する予定です。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。金銭出納帳に領収書の添付と確認のサインがあります。月に1回、写真を中心に行事の実施状況、今後の予定を載せた「やすらぎだより」を発行し家族に送付しています。訪問の少ない家族には、ホームでの様子を記した手紙を添えて送付しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が思いや希望、不満を表出できるように心がけて対応しています。家族は運営推進会議にも参加して意見や要望を述べています。意見箱の設置も実施しています。家族等から出された意見は、ミーティング等で話し合い対応しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地域住民を中心とした職員はホームや利用者を支える意識が高く、この1年間、退職する職員はありません。新職員が入る場合は、影響が最小限になるように勉強会を行っています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や伝達研修、内部研修が積極的に実施され、記録も残っています。「感染症」「認知症」「緊急時対応」を含む研修をされています。新人職員の採用時研修も実施されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、同業者と交流を図っています。また近隣のグループホーム間でも定例会を設け、相互研修を実施して交流し、サービス向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい利用者が入居する機会は最近ありませんが、職員が家庭訪問を行ったり、利用者や家族がホームに来訪し体験入居したり、日中の体験を利用して、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるように取り組む予定です。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。料理、洗濯の得意な方、地元の盆踊りの踊りが得意な方、本が大好きで自身の居室やホームの書棚にも本を置かれている元学校の先生、編み物や生け花の得意な方等、利用者の得意分野で、家事や行事の機会を通して、学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者毎に担当職員を配置しています。担当職員が3ヶ月毎に交替する時にセンター方式の情報シートに利用者の情報を書き込み、新しい様式「生活歴」表を作成して、利用者の思いや意向を把握し、介護計画に反映する努力をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を反映させ、介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。毎月のミーティング、3ヶ月毎にケアマネジャーが実施する支援経過記録を使ったモニタリング、サービス担当者会議を経て介護計画の見直しにつなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	協力クリニックの医師と職員 として配置している2人の看 護師との医療連携により、必 要な医療と看護を提供してい ます。ホームでは必要の都度 通院介助も行っています。地 域住民の介護の相談に応じ、 地域のボランティアの支援も 受けています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られた、かか りつけ医と事業所の関係を築 きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力クリニックの医師による 週1回の往診医療を受けてい ますが、入居以前の、かかり つけ医療機関への通院を希望 された方には通院援助を行っ ています。協力病院と連携し、 夜間や急変時の対応について の体制も整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から本人や家族等なら びにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有 している	ホームで看取りを実施する方 針で、現在指針を作成中です。 指針作成後は家族にも説明す る予定です。重度化した場合、 状況の変化とともに、利用者 と家族、医師、ホームとの話 し合いを行い意向の確認を続 けていく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、利用者に対しやさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。起床時間や食事の時間、入浴時間、毎日の散歩の時間について柔軟に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生食材を業者から取り寄せ、ホームで調理しています。週に1度は利用者のリクエストメニューになっており、利用者は買い物から食事準備、下ごしらえ、盛り付け、後片付け等の一連の作業に得意な分野で積極的に参加しています。庭の菜園でとれる野菜や近所でいただく野菜が食卓にのることがあります。職員は同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴ができ、平均して週3回程度の入浴ができています。風呂に入らない日は清拭を受けています。利用者は長湯を楽しんだり、季節の柚子湯や菖蒲湯などの行事風呂を楽しんだりしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。歌を歌ったり、絵を描いたり、編み物をしたり、手芸をしたりして楽しんでいます。行きたい所への個別外出が利用者にとって大きな楽しみになっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な周辺の散歩や買い物、青空市場や魚市場に行ったり、個別に利用者の希望するお墓参りや自宅を訪問したり、ご主人の通う街かどデイサービスに参加して面会することもあります。年2回日帰り旅行に出かけ、今年は海遊館や大衆演劇に行っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけず、職員の見守りにて対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年2回の避難訓練をしています。今後は町の防火消防訓練にも参加をする予定です。非常・災害時の食料品と水の備蓄についても実施されています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の一日の食事摂取量と水分摂取量を記録し把握しています。栄養バランスについては、食材業者の管理栄養士とホームの看護師のアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立派な日本庭園のある旧家を改装したホームで、広い縁側廊下から季節の花木や灯籠、庭石のある庭を眺めたり、庭の一部を菜園にして収穫を楽しんだり、利用者には懐かしさを感じる場所になっています。食堂やリビング、広い縁側廊下など複数の居場所があり、書画や骨董品、古い家具がさりげなく配置されていて、季節の生け花もある共用空間は、昔懐かしい風情で落ち着いた家族的な雰囲気、利用者は落ち着いた表情で過ごしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧家にもともとあった家具や襖、欄間に囲まれ、持ち込みの少ない利用者には職員が家具を持ち込み提供しています。それぞれの居室には洋服ダンス、整理ダンス 飾り棚、ドレッサー、鏡台、仏壇、遺影、書籍、絵画、家族の写真、手作り作品等使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、居心地よく安心して生活できる空間になっています。		